

Ms. Green is (from Canada).

グリーン先生はカナダ出身です。

- Ms. Green が S (主語)、is が V (動詞) です。
- from Canada は修飾語で副詞のはたらきです。

「カナダから」という意味をもち、動詞 is の場所を説明しています。

She teaches English (in Japan) (now).

彼女は今、日本で英語を教えています。

- She が S (主語)、teaches が V (動詞)、English が O (目的語) です。
- in Japan は修飾語で副詞のはたらきです。

「日本で」という意味をもち、動詞 teaches の場所を説明しています。

- now は時間を示す副詞です。「現在」という意味をもちます。

| She is going to go back (to her country) (during this summer vacation). |
S V

今年の夏休みの間、彼女は自分の国に戻るつもりです。

○ She が S (主語)、 is going to go back が V (動詞) です。

○ to her country は修飾語で副詞のはたらきです。

「彼女の国へ」という意味をもち、動詞 is going to go back の目的地を説明しています。

○ during this summer vacation は修飾語で副詞のはたらきです。

「この夏休みの間に」という意味をもち、動詞 is going to go back の時間を説明しています。

| She has many plans <for it> . |
S V O

彼女にはそのためのたくさんの計画があります

○ She が S (主語)、 has が V (動詞)、 many plans が O (目的語) です。

○ for it は修飾語で形容詞のはたらきです。

「そのための」という意味をもち、 many plans を説明しています。

She is going to get (to Canada) (on August 10), and have a party
S V V O
(with her friends) (the next day).

彼女は8月10日にカナダに到着する予定です。そして、次の日に友達とパーティーをする予定です。

- この文は、and によって2つの節が結ばれています。
- 1つ目の節は She が S (主語)、is going to get が V (動詞) です。
「カナダに」という意味をもち、動詞 get の目的地を説明しています。
- on August 10 は修飾語で副詞のはたらきです。
「8月10日に」という意味をもち、動詞 is going to get の日付を説明しています。
- 2つ目の節は have が V (動詞)、a party が O (目的語) です。
省略されていますが、She が S (主語) です。
- with her friends は修飾語で副詞のはたらきです。
「友達と一緒に」という意味をもち、誰とパーティーをするのかを説明しています。
- the next day は修飾語で副詞のはたらきです。
「その次の日に」という意味をもち、動詞 have の時間を説明しています。

Her family lives (near the sea).
 S V

彼女の家族は海の近くに住んでいます

- Her family が S (主語)、 lives が V (動詞) です。
- near the sea は修飾語で副詞のはたらきです。

「海の近くに」という意味をもち、動詞 lives の場所を説明しています。

So, she is going to swim (in the sea) (during the vacation)
 S V

(with her family).

だから、彼女は休暇中に、家族と海で泳ぐつもりです。

- she が S (主語)、 is going to swim が V (動詞) です。
- in the sea は修飾語で副詞のはたらきです。

「海で」という意味をもち、動詞 swim の場所を説明しています。

- during the vacation は修飾語で副詞のはたらきです。

「休暇中に」という意味をもち、動詞 swim の期間を説明しています。

- with her family は修飾語で副詞のはたらきです。

「家族と一緒に」という意味をもち、誰と泳ぐのかを説明しています。

Let's check the weather.

V

O

天気を確認しましょう。

- Let's check が V (動詞)、 the weather が O (目的語) です。
- Let's は動詞 Let と 目的語 us の短縮形ですが、ここでは、「一緒に～しよう」という意味の、提案型の命令文をつくる動詞の一部と考えます。

It is (mostly) sunny (in Tokyo) (now).

S V

C

今の東京は主に晴れです。

- It が S (主語)、 is が V (動詞)、 sunny が C (補語) です。
- It は、ここでは具体的な意味をもたず、主語の位置を埋めるために使われます。(形式主語)
- mostly は副詞です。「ほとんどは」という意味をもち、補語 sunny の程度を説明しています。
- in Tokyo は修飾語で副詞のはたらきです。
「東京で」という意味をもち、天候がどこで起きているかの場所を説明しています。
- now は副詞です。「今」という意味をもち、時間を説明しています。

|(On Saturday), it will be (mostly) cloudy.|

土曜日は、主に曇りでしょう。

- it が S (主語)、 will be が V (動詞)、 cloudy が C (補語) です。
- It は、ここでは具体的な意味をもたず、主語の位置を埋めるために使われます。(形式主語)
- mostly は副詞です。「ほとんどは」という意味をもち、補語 cloudy の程度を説明しています。
- On Saturday は修飾語で副詞のはたらきです。「土曜日に」という意味をもち、時間を説明しています。

|Today's low will be 8 degrees, and the high will be 18 degrees. |

今日の最低気温は8度、最高気温は18度でしょう。

- この文は2つの節で構成され、and によって結ばれています。
- 第1の節は、Today's low が S (主語)、 will be が V (動詞)、 8 degrees が C (補語) です。
- 第2の節は、the high が S (主語)、 will be が V (動詞)、 18 degrees が C (補語) です。

This Sunday will be sunny (in the morning),
 S V C

but cloudy (in the evening), and rain will begin (late in the evening).
 C S V

今週の日曜日は、朝は晴れますが、夕方には曇り、夜遅くには雨が降り始めるでしょう。

- この文は3つの節で構成され、but と and によって結ばれています。
- 第1の節は、This Sunday が S (主語)、 will be が V (動詞)、 sunny が C (補語) です。
 - in the morning は修飾語で副詞のはたらきです。

「午前中に」という意味をもち、動詞 will be の時間を説明しています。
- 第2の節は、cloudy が C (補語) です。
 - in the evening は修飾語で副詞のはたらきです。

「午後に」という意味をもち、動詞 will be の時間を説明しています。
- This Sunday will be cloudy in the evening. から主語や動詞が省略された形です。
- 第3の節は、rain が S (主語)、 will begin が V (動詞) です。
 - late in the evening は修飾語で副詞のはたらきです。

「夕方遅くに」という意味をもち、動詞 will begin の時間を説明しています。
- 全体として、but によって午前、午後を対比し、and によって情報を追加しています。

The low will be 9 degrees, and the high will be 20 degrees.
S V C S V C

最低気温は9度、最高気温は20度でしょう。

- この文は2つの節で構成され、and によって結ばれています。
- 第1の節は、The low が S (主語)、 will be が V (動詞)、 9 degrees が C (補語) です。
- 第2の節は、the high が S (主語)、 will be が V (動詞)、 20 degrees が C (補語) です。

It will rain (all day) (on Monday).
S V

月曜日は1日中雨が降るでしょう。

- It が S (主語)、 will rain が V (動詞) です。
- It は、ここでは具体的な意味をもたず、主語の位置を埋めるために使われます。(形式主語)
- all day は修飾語で副詞のはたらきです。

「一日中」という意味をもち、動詞 will rain の時間を説明しています。

- on Monday は修飾語で副詞のはたらきです。

「月曜日に」という意味をもち、動詞 will rain の時間を説明しています。

The low will be 10 degrees, and the high will be 19 degrees.
S V C S V C

最低気温は10度で、最高気温は19度でしょう。

- この文は2つの節で構成され、and によって結ばれています。
- 第1の節は、The low が S (主語)、 will be が V (動詞)、 10 degrees が C (補語) です。
- 第2の節は、the high が S (主語)、 will be が V (動詞)、 19 degrees が C (補語) です。

Do you know the word "restaurant"?

S O
V

レストランという言葉を知っていますか?

○ you が S (主語)、Do ~ know が V (動詞)、the word "restaurant" が O (目的語) です。

○ Do は助動詞で、主語の前に置くことで疑問文を形成します。

know の有無をたずねる文になっています。

It looks (like English),
S V
but (originally) it was French and meant "restore."
S V C V O

英語のように見えますが、もとはフランス語で「回復させる」を意味しました。

○ この文は2つの節で構成され、but によって結ばれています。

○ 第1の節は、It が S (主語)、looks が V (動詞) です。

It は前文の the word "restaurant" を指しています。

○ like English は修飾語で副詞のはたらきです。

「英語のように」という意味をもち、動詞 looks の状態を説明しています。

○ 第2節内には2つの動詞 was と meant が and で並列されています。

○ it が S (主語)、was が V (動詞)、French が C (補語) です。

同じ it を主語として、meant が V (動詞)、“restore” が C (補語) です。

It は同じく、the word "restaurant" を指しています。

○ originally は副詞です。「もともと」という意味をもち、it was French and meant

“restore.” 全体を説明しています。

French cooks used soup (for their dishes).

フランスの料理人たちは料理にスープを使いました。

- French cooks が S (主語)、 used が V (動詞)、 soup が O (目的語) です。
- for their dishes は修飾語で副詞のはたらきです。

「料理のために」という意味をもち、動詞 used の用途を説明しています。

The cooks stewed meat and vegetables and got their soup.

その料理人たちは肉や野菜を煮てそのスープを得ました。

- この文は2つの節で構成され、and によって結ばれています。
- 第1の節は、The cooks が S (主語)、 stewed が V (動詞)、 meat and vegetables が O (目的語) です。
- 第2の節は、got が V (動詞)、 their soup が O (目的語) です。

※主語 the cooks が省略されています。

It gave people enough nutrition.

それは人々に十分な栄養を与えました。

○ It が S (主語)、gave が V (動詞) です。gave のあとに、2種類の O (目的語) が続いています。

※ It は soup を指しています。

○ people は「誰に与えたか (間接 O)」を示しています。

○ enough nutrition は「何を与えたか (直接 O)」を示しています。

So, people named the soup “restaurant.”

だから、人々はそのスープを「レストラン」と名づけました。

○ people が S (主語)、named が V (動詞)、the soup が O (目的語)、“restaurant.” が C (補語) です。

○ the soup = “restaurant.” の関係です。

○ So は結果を示す接続詞で、「それで」という意味をもちます。

(At the end <of the 18th century>), a person opened
S V
a new eating place.
O

18世紀の終わり、ある人が新しい飲食店を開きました

- a person が S (主語)、 opened が V (動詞)、 a new eating place が O (目的語) です。
- At the end of the 18th century は修飾語で副詞のはたらきです。
「18世紀の終わりに」という意味をもち、文全体の時期を説明しています。
- of the 18th century は修飾語で形容詞のはたらきです。 the end を説明しています。

The name <of the place> was “restaurant” (after the soup)
S V C
because the soup was popular.
S V C

スープが人気だったので、その場所の名前は「そのスープにちなんでレストラン」でした。

- この文は、主節 ‘The name of the place was “restaurant” after the soup’ と、従属節 “because the soup was popular” の2つの部分からなる複文です。
- 主節は、The name が S (主語)、 was が V (動詞)、“restaurant” が C (補語) です。
- of the place は修飾語で形容詞のはたらきです。 The name を説明しています。
- after the soup は修飾語で副詞のはたらきです。
「スープにちなんで (由来して)」という意味をもち、動詞 was を修飾しています。
- 従属節は、the soup が S (主語)、 was が V (動詞)、 popular が C (補語) です。
- because は、理由を表す接続詞で、「～だから」という意味をもちます。

(Nowadays), people call eating places “restaurant,” (not the soup).

今では、人々はスープではなく飲食店を「レストラン」と呼びます。

- people が S (主語)、 call が V (動詞)、 eating places が O (目的語)、“restaurant,” が C (補語) です。
- eating places = “restaurant.” の関係です。
- not the soup は修飾語で副詞のはたらきです。
「スープではなく」という意味をもち、対比を強調しています。
- Nowadays は副詞です。「今では」という意味をもち、文全体を修飾しています。

There were a lot of people (at the airport),
 V S

but there weren't many chairs.
 V S

空港にはたくさんの方がいましたが、いすはたくさんありませんでした。

- この文は2つの節で構成され、 but によって結ばれています。
- 第1の節は、 a lot of people が S (主語)、 were が V (動詞) です。
- there は存在を示す形式的な主語です。

文法上は主語の位置を埋める役割を果たしますが、文の意味上の主語ではありません。

- at the airport は修飾語で副詞のはたらきです。

「空港で」という意味をもち、動詞 were の場所を説明しています。

- 第2の節は、 many chairs が S (主語)、 weren't が V (動詞) です。
- there は存在を示す形式的な主語です。
- but は「しかし」という意味をもち、前の文との対比を強調しています。

So they had to stand.
 S V

そのため、彼らは立っていなければなりませんでした。

- they が S (主語)、 had to stand が V (動詞) です。
- So は「そのため」という意味をもち、結果を示しています。

Bob said, “We came (here) (nine hours ago).”
S V S V

When will our plane take off?”
いつ S V

ボブは「ぼくたちは9時間前にここに来むつになったら飛行機は飛ぶのだと書いていました。」

○ この文は、主節に直接話法が続く構造です。

直接話法は、引用符（“ ”）を使い、話した言葉をそのまま引用する方法です。

○ 主節は、Bob が S（主語）、said が V（動詞）です。

○ 直接話法内には、2つの文が含まれています。

○ 直接話法内の1文目は、We が S（主語）、came が V（動詞）です。

○ here は副詞です。「ここに」という意味をもち、動詞 came の場所を説明しています。

○ nine hours ago は修飾語で副詞のはたらきです。

「9時間前に」という意味をもち、動詞 came の時間を説明しています。

○ 直接話法内の2文目は、our plane が S（主語）、will take off が V（動詞）です。

○ here は副詞です。「ここに」という意味をもち、動詞 came の場所を説明しています。

○ When は時間をたずねる疑問詞で、「いつ」という意味をもちます。

But (just then), they heard the news.

しかし、ちょうどそのとき、彼らは知らせを聞きました。

- they が S (主語)、 heard が V (動詞)、 the news O (目的語) です。
- just then は修飾語で副詞のはたらきです。

「ちょうどそのとき」という意味をもち、動詞 heard の時間を説明しています。

“The plane will take off (soon),” a woman said.

「まもなく飛行機が飛びます」と女性が言いました。

- この文は、主節に直接話法が続く構造です。

直接話法は、引用符 (“ ”) を使い、話した言葉をそのまま引用する方法です。

- 主節は、a woman が S (主語)、 said が V (動詞) です。
- 直接話法内の文は、 The plane が S (主語)、 will take off が V (動詞) です。
- soon は副詞です。「まもなく」という意味をもち、動詞 will take off の時間を説明しています。

We see many kinds <of tomatoes> (when we go (to a supermarket)).
S V O S V

私たちはスーパーへ行ったとき、多くの種類のトマトを見かけます。

- この文は、主節 “We see many kinds of tomatoes” と従属節 “when we go to a supermarket” の2つの部分からなる複文です。
- 主節は、We が S (主語)、see が V (動詞)、many kinds が O (目的語) です。
- of tomatoes は修飾語で形容詞のはたらきです。many kinds を説明しています。
- 従属節は、We が S (主語)、go が V (動詞) です。
- to a supermarket は修飾語で副詞のはたらきです。
「スーパーへ」という意味をもち、動詞 go の場所を説明しています。
- when は、時間を表す接続詞で、「～するとき」という意味をもちます。

(Even when we go (to a restaurant)), we (often) eat tomatoes.

私たちがレストランへ行くときでさえ、よくトマトを食べます。

- この文は、主節 “we often eat tomatoes” と従属節 “Even when we go to a restaurant” の2つの部分からなる複文です。
- 主節は、We が S (主語)、eat が V (動詞)、tomatoes が O (目的語) です。
- often は副詞です。「よく (しばしば)」という意味をもち、動詞 eat の頻度を説明しています。
- 従属節は、we が S (主語)、go が V (動詞) です。
- to a restaurant は修飾語で副詞のはたらきです。
「レストランへ」という意味をもち、動詞 go の場所を説明しています。
- when は、時間を表す接続詞で、「～するとき」という意味をもちます。
- Even は副詞です。「～でさえ、～の場合でも」という意味をもち、強調しています。

However,

(in the past), people (just) enjoyed [looking (at them)]

(as a kind <of flower>).

しかしながら昔は、人々は花の一種としてただそれらを見て楽しむだけでした。

○ people が S (主語)、enjoyed が V (動詞)、looking at them が O (目的語) です。

※ looking は動名詞です。

○ at them は修飾語で副詞のはたらきです。

「それらを」という意味をもち、動詞 look (looking) の対象を説明しています。

○ as a kind of flower は修飾語で副詞のはたらきです。

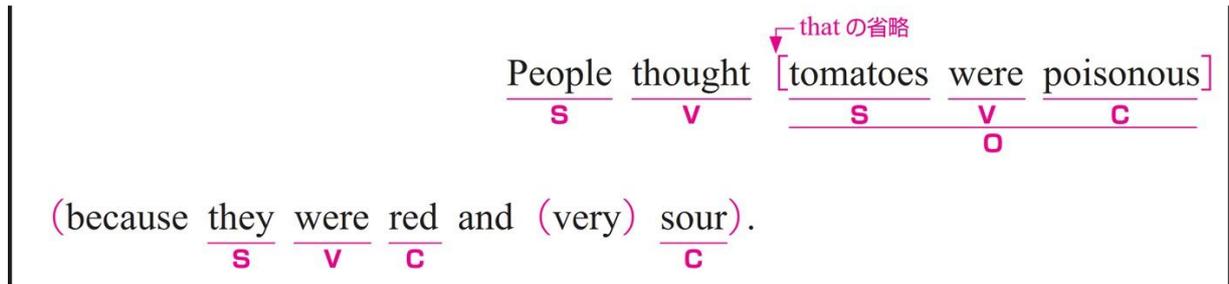
○ of flower は修飾語で形容詞のはたらきです。a kind を説明しています。

「花の一種として」という意味をもち、どのように（見ているか）を説明しています。

○ However は「しかしながら」という意味をもち、前の文との対比を示しています。

○ in the past は修飾語で副詞のはたらきです。

「過去に」という意味をもち、動詞 enjoyed の時間を説明しています。



人々は、トマトは赤くてとてもすっぱいので有毒だと考えていました。

- この文は、主節 “People thought tomatoes were poisonous” と従属節 “because they were red and very sour” の2つの部分からなる複文です。
- 主節は、People が S (主語)、 thought が V (動詞)、 tomatoes were poisonous が O (目的語) です。
- tomatoes were poisonous は、主語と動詞をふくむ節 (名詞節) です。
tomatoes が S (主語)、 were が V (動詞)、 poisonous が C (補語) です。
- 従属節は、they が S (主語)、 were が V (動詞)、 red と sour が C (補語) です。
- very は副詞で、 形容詞 sour を強調しています。
- because は、理由を表す接続詞で、「～だから」という意味をもちます。



しかしある人々がそれらを食べてみました。

- some people が S (主語)、 tried が V (動詞)、 eating them が O (目的語) です。
- eating は動名詞です。 them はトマトを指しています。

(Today), we have a short trip.
S V O

今日、私たちは小旅行があります。

- We が S (主語)、 have が V (動詞)、 a short trip が O (目的語) です。
- Today は副詞です。「今日」という意味をもち、文全体を修飾しています。

You can go (anywhere) (around this town).
S V

あなたたちはこの町中どこへでも行ってよいです。

- You が S (主語)、 can go が V (動詞) です。
- anywhere は副詞です。「どこへでも」という意味をもち、動詞 can go を修飾しています。
- around this town は修飾語で副詞のはたらきです。
「この町中」という意味をもち、動詞 can go の場所を説明しています。

This town has a lot of traditional buildings.
S V O

この町にはたくさんの伝統的な建物があります。

- This town が S (主語)、 has が V (動詞)、 a lot of traditional buildings が O (目的語) です。
- a lot of は「たくさんの」という意味をもち、buildings を修飾しています。
- traditional は「伝統的な」という意味をもち、buildings を修飾しています。

Can you see that tall building (over there)?
S V O

向こうにあるあの高い建物が見えますか。

- you が S (主語)、Can ~ see が V (動詞)、that tall building が O (目的語) です。
- over there は修飾語で副詞のはたらきです。

「あちらに (向こうに)」という意味をもち、動詞 can see の場所を説明しています。

That is the library.
S V C

あれは図書館です。

- That が S (主語)、is が V (動詞)、the library が C (補語) です。
- That = the library の関係です。

It is three hundred years old and it has a long history.
S V C S V O

それは築300年で、長い歴史があります。

- この文は2つの節で構成され、and によって結ばれています。
- 第1の節は、It が S (主語)、is が V (動詞)、three hundred years old が C (補語) です。

It は the library を指しています。

- 第2の節は、it が S (主語)、has が V (動詞)、a long history が O (目的語) です。

It は同じく the library を指しています。

Remember.

V

覚えておいてください。

- Remember が V (動詞) です。
- 命令文で、「覚えておいて」「忘れないで」という意味をもちます。
(主語は省略されていますが、あなたに向けた指示を表しています)

You must not eat or drink (in such old buildings).

S

V

V

そのような古い建物の中では食べたり飲んだりしてはいけません

- You が S (主語)、 must not eat と drink が V (動詞) です。
- in such old buildings は修飾語で副詞のはたらきです。
「そのような古い建物の中で」という意味をもち、動詞 must not eat or drink の場所を説明しています。

The newspaper says [it may rain (today)].
S V S V O

新聞には、今日は雨が降るかもしれないと書いてあります。

○ The newspaper が S (主語)、 says が V (動詞)、 it may rain today が O (目的語) です。

○ it may rain today は主語と動詞をふくむ節 (名詞節) です。

it が S (主語)、 may rain が V (動詞) です。

○ today は副詞です。「今日」という意味をもち、動詞 may rain の時間を説明しています。

So, bring your umbrella (with you).
V O

なので、傘を持っていきなさい。

○ bring が V (動詞)、 your umbrella が O (目的語) です。

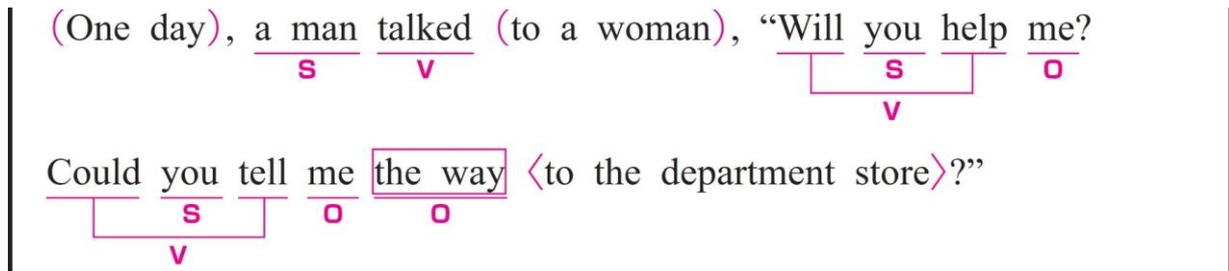
○ 命令文で、「持っていきなさい」という意味をもちます。

(主語は省略されていますが、あなたに向けた指示を表しています)

○ with you は修飾語で副詞のはたらきです。

「あなたと一緒に」という意味をもち、動詞 bring を修飾しています。

○ So は接続詞で、「だから (なので)」という意味をもち、前文との因果関係を示しています。



ある日、男性が女性に「助けてくれませんか。デパートへの道を教えてくださいませんか」と話しかけました。

① One day,

- 修飾語で副詞のはたらきです。「ある日」という意味をもち、文全体の時を表しています。
- 文の先頭に置くことで、「ある日、～」という 時の情報 を強調しています。

② A man talked to a woman,

- A man が S (主語)、 talked が V (動詞) です。
- to a woman は修飾語で副詞のはたらきです。
- 「ある女性に」という意味をもち、動詞 talked を修飾しています。

③ Will you help me?

- you が S (主語)、 Will ~ help が V (動詞)、 me が O (目的語) です。

④ Could you tell me the way to the department store?

- you が S (主語)、 Could ~ tell が V (動詞) です。
- tell のあとに、2種類の O (目的語) が続いています。
- me は 「教える相手：誰 (間接 O)」を示しています。
- the way は「教える内容：何 (直接 O)」を示しています。
- to the department store は修飾語で形容詞のはたらきです。 the way を修飾しています。

| She answered, “Sure. Shall I draw a map (for you)?”
| S V S O
| V

彼女は「もちろんです。あなたのために地図をかきましようか」と答えました。

① She answered,

○ She が S (主語)、 answered が V (動詞) です。

② Sure.

○ 「もちろん」という意味の簡潔な肯定の返事を示しています。

③ Shall I draw a map for you?

○ I が S (主語)、 Shall ~ draw が V (動詞)、 a map が O (目的語) です。

○ for you は修飾語で副詞のはたらきです。

「あなたのために」という意味をもち、動詞 draw を修飾しています。

| But she didn't have a pen.
| S V O

しかし彼女はペンを持っていませんでした。

① But

○ 「しかし」「でも」という意味をもつ接続詞です。

前の文と対比・対照の関係を示すために使われています。

② She didn't have a pen.

○ She が S (主語)、 didn't have が V (動詞)、 a pen が O (目的語) です。

He said, “Shall we go (somewhere) and get a pen?”
S V S V O

Oh, there is a department store (over there).”
V S

彼は「どこかへ行ってペンを買いませんか。ああ、デパートがあちらにありますよ」と言いました。

① He said,

○ He が S (主語)、 said が V (動詞) です。

② Shall we go somewhere and get a pen?

○ we が S (主語)、 Shall ~ go (and) get が V (動詞) です。

○ a pen は動詞 get の O (目的語) です。

○ somewhere は副詞です。「どこかへ」という意味をもち、動詞 go を修飾しています。

③ Oh, there is a department store over there.

○ Oh は「ああ」「おや」などの感情を表す表現です。

○ a department store が S (主語)、 is が V (動詞) です。

○ over there は修飾語で副詞のはたらきです。

「あそこに」という意味をもち、動詞 is を修飾しています。

○ there は「～がある」という存在を表現しています。

| She said, “Great. (Now) I don’t have to get a pen!” |

彼女は「すばらしい。今はもうペンを買う必要はないですね!」と言いました。

① She said,

○ She が S (主語)、 said が V (動詞) です。

② Great.

○ 「すばらしい」という意味の喜びや満足を表す表現です。

③ Now I don’t have to get a pen!

○ I が S (主語)、 don’t have to get が V (動詞)、 a pen が O (目的語) です。

○ Now は副詞です。「今では、今はもう」という意味をもち、文全体を修飾しています。

I'm Mari.
S V C

私はマリです。

- I が S (主語)、 am ('m) が V (動詞)、 Mari が C (補語) です。
- I = Mari の関係です。

I like [to take pictures].
S V O

私は写真を撮ることが好きです。

- I が S (主語)、 like が V (動詞)、 to take pictures が O (目的語) です。
- to take pictures は「写真を撮ること」という意味で、名詞として扱っています。

My dream is [to be a professional photographer].
S V C

私の夢はプロの写真家になることです。

- My dream が S (主語)、 is が V (動詞)、 to be a professional photographer が C (補語) です。
- to be a professional photographer は「プロの写真家になること」という意味で、名詞として扱っています。
- My dream = to be a professional photographer の関係です。 to be a professional photographer が 主語 My dream の内容を説明する補語になっています。

I like rainbows, but ^{形式主語} it is difficult [to see rainbows (at night)].
S V O S V C It is ~ to ...

私は虹が好きですが、夜に虹を見ることは難しいです。

① I like rainbows,

○ I が S (主語)、 like が V (動詞)、 rainbows が O (目的語) です。

② but it is difficult to see rainbows at night.

○ but は、前の文と対比を示すために使われています。

○ to see rainbows at night が S (主語)、 is が V (動詞)、 difficult が C (補語) です。

○ It は形式主語で、実際の意味をもちません。

○ to see rainbows at night は「夜に虹を見ること」という意味で、名詞として扱っています。

○ at night は修飾語で副詞のはたらきです。

「夜に」という意味をもち、動詞 see を修飾しています。

○ to see rainbows at night = difficult の関係です。

difficult が 主語 to see rainbows at night の難易度を説明する補語になっています。

However, we might see a rainbow (at night).

しかしながら、私たちは夜に虹を見るかもしれません。

① However,

○ However は副詞で、前の文（夜に虹を見るのは難しい）との対比を示しています。

② We might see a rainbow at night.

○ We が S（主語）、might see が V（動詞）、a rainbow が O（目的語）です。

○ at night は修飾語で副詞のはたらきです。

「夜に」という意味をもち、動詞 see を修飾しています。

This is a moonbow.

これは月虹です。

○ This が S（主語）、is が V（動詞）、a moonbow が C（補語）です。

○ This = a moonbow の関係です。

(If you are lucky), you may see one (especially in a dark place)

(on a misty, full moon night).

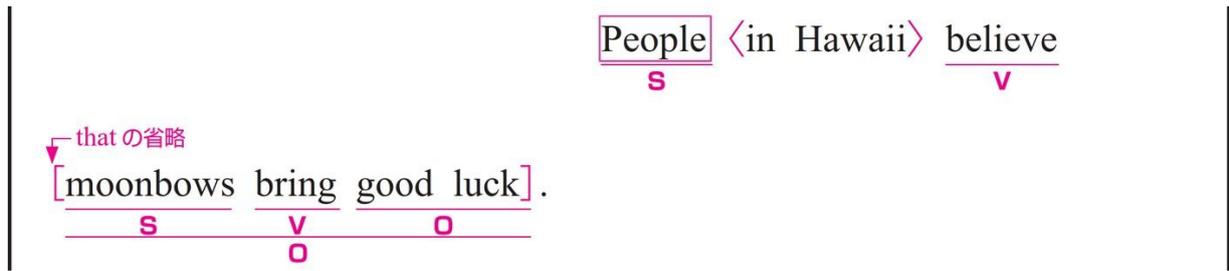
もしあなたが幸運なら、霧のかかった満月の夜、特に暗い場所で、それを見られるかもしれません。

① If you are lucky,

- you が S (主語)、 are が V (動詞)、 lucky が C (補語) です。
- you = lucky の関係です。
- If は「もし～なら」という意味の接続詞で、条件を表しています。

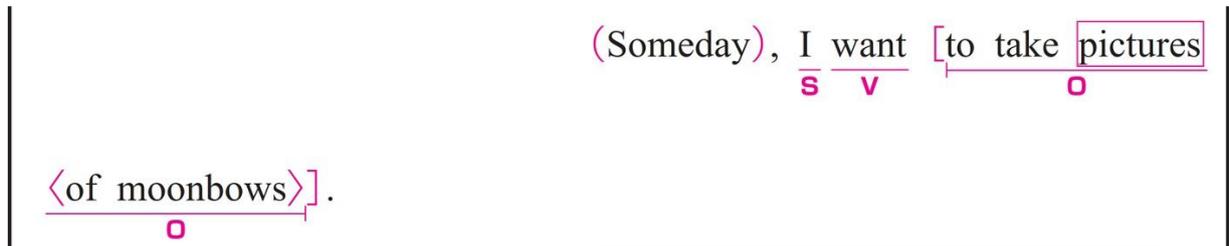
② you may see one especially in a dark place on a misty, full moon night.

- you が S (主語)、 may see が V (動詞)、 one が O (目的語) です。
- one は、a rainbow を指しています。
- especially は「特に」という意味の副詞で、動詞 see を修飾しています。
- in a dark place は修飾語で副詞のはたらきです。
「暗い場所で」という意味をもち、動詞 see を修飾しています。
- on a misty, full moon night は修飾語で副詞のはたらきです。
「霧のかかった満月の夜」という意味をもち、動詞 see を修飾しています。



ハワイの人々は月虹が幸運をもたらすと信じています。

- People が S (主語)、 believe が V (動詞)、 moonbows bring good luck が O (目的語) です。
- in Hawaii は修飾語で形容詞のはたらきです。 People を修飾しています。
- moonbows bring good luck は believe の O (目的語) の役割をする名詞節です。
- moonbows が S (主語)、 bring が V (動詞)、 good luck が O (目的語) です。



いつか私は月虹の写真撮りたいです。

① Someday,

- Someday は「いつの日か」という意味の副詞で、文全体を修飾しています。

② I want to take pictures of moonbows.

- I が S (主語)、 want が V (動詞)、 to take pictures of moonbows が O (目的語) です。
- to take pictures of moonbows は「月虹の写真撮ること」という意味で、名詞として扱っています。
- of moonbows は修飾語で形容詞のはたらきです。 pictures を修飾しています。

Bob does volunteer work.
S V O

ボブはボランティア活動をします。

- Bob が S (主語)、 does が V (動詞)、 volunteer work が O (目的語) です。
- does が主語の行為 (すること) を表し、目的語 volunteer work がその対象を具体的に説明しています。

(Every Saturday), Bob visits an old woman, Ms. Green,
S V O an old woman と同格

(to help her).

毎週土曜日、ボブは老婦人のグリーンさんを手伝うために、彼女を訪ねます。

① Every Saturday,

- 修飾語で副詞のはたらきです。

「毎週土曜日」という意味をもち、文全体の時を表しています。

② Bob visits an old woman, Ms. Green.

- Bob が S (主語)、 visits が V (動詞)、 an old woman, Ms. Green が O (目的語) です。
- Ms. Green は an old woman を説明する同格表現です。

同格表現を使うことで、まとめて情報を提供できます。

- to help her は「彼女を助けるために」という意味で、副詞のはたらきです。

動詞 visited の目的を説明しています。

He cleans her room and takes her (to the library and the supermarket).

takes を修飾する副詞句

S V O V O

彼は彼女の部屋を掃除して、彼女を図書館とスーパーマーケットに連れて行きます。

○ He が S (主語)、cleans と takes が V (動詞) です。and によって、cleans her room と takes her to the library and the supermarket がつながっています。

① cleans her room

○ cleans が V (動詞)、her room が O (目的語) です。

② takes her to the library and the supermarket

○ takes が V (動詞)、her が O (目的語) です。

○ to the library and the supermarket は修飾語で副詞のはたらきです。

動詞 takes の場所を説明しています。

| She talks (with a big smile (on her face)). |

彼女は顔に満面の笑みを浮かべて話します。

○ She が S (主語)、talks が V (動詞) です。

○ with a big smile は修飾語で副詞のはたらきです。

「大きな笑顔を浮かべながら」という意味をもち、動詞 talks を修飾しています。

○ on her face は修飾語で副詞のはたらきです。

a big smile (大きな笑顔) を修飾し、「彼女の顔にある大きな笑顔」という意味を強調しています。

| Bob is happy (to see her smile). |

ボブは彼女の笑顔を見て、うれしくなります。

○ Bob が S (主語)、is が V (動詞)、happy が C (補語) です。

○ to see her smile は「彼女の笑顔を見ることができて」という意味で、副詞のはたらきです。

形容詞 happy の感情の理由を説明しています。

Aki has a dog.
S V O

アキはイヌを飼っています。

- Aki が S (主語)、 has が V (動詞)、 a dog が O (目的語) です。

There are a lot of things <to do (for him)>.
V S

彼のためにすべきことがたくさんあります。

- a lot of things が S (主語)、 are が V (動詞) です。
- There は「～がある」という存在を表現するための形式主語です。(意味上の主語ではない)
- to do for him は「彼のためにすべき」という意味で、形容詞のはたらきです。

a lot of things を修飾しています。

- for him は修飾語で副詞のはたらきです。

「彼のために」という意味をもち、動詞 do を修飾しています。

But he's a member <of her family>.
S V C

しかし、彼は家族の一員です。

① But

○ 「しかし」「でも」という意味をもつ接続詞です。前の文と対比を示しています。

② he's a member of her family.

○ he が S (主語)、 is ('s) が V (動詞)、 a member が C (補語) です。

○ of her family は修飾語で形容詞のはたらきです。

「彼女の家族の」という意味をもち、a member を修飾しています。

She likes [to take care <of him>].
S V O

彼女は彼の世話をするのが好きです。

○ She が S (主語)、 likes が V (動詞)、 to take care of him が O (目的語) です。

○ to take care of him は「彼の世話をすること」という意味で、名詞として扱っています。

○ of him は修飾語で形容詞のはたらきです。

「彼の」という意味をもち、care を修飾しています。

Her friend, Tom wants a dog, but his mother doesn't.
S Her friend V O S V
と同格

彼女の友達のトムはイヌをほしがっていますが彼のお母さんはほしがっていません

① Her friend, Tom wants a dog,

○ Her friend が S (主語)、 wants が V (動詞)、 a dog が O (目的語) です。

○ Tom は Her friend を説明する同格表現です。

同格表現を使うことで、1つの文にまとめて情報を提供しています。

② but his mother doesn't.

○ his mother が S (主語)、 doesn't が V (動詞) です。

○ want a dog のくり返しを避けるために、 doesn't は doesn't want a dog として機能しています。

○ but は、Her friend, Tom wants a dog と his mother doesn't を結び、対照的な内容を示しています。

His mother thinks, “We can't take a dog (on our family trip).”
S V S V O

彼のお母さんは、「イヌを家族旅行に連れて行けない」と思っています。

① His mother thinks,

○ His mother が S (主語)、 thinks が V (動詞) です。

② We can't take a dog on our family trip.

○ We が S (主語)、 can't take が V (動詞)、 a dog が O (目的語) です。

○ on our family trip は修飾語で副詞のはたらきです。

「家族旅行に」という意味をもち、動詞 take を修飾しています。

Aki said (to Tom), “I have a good idea <to tell her>.”
S V S V O

There's a wonderful animal hotel (in our city).
V S

(During the trip), your pet can stay (there).”
S V

アキはトムに「彼女に伝えるいい考えがあります。私たちの市にはすてきな動物ホテルがあります。旅行の間、あなたのペットはそこに泊まることができます。」と話しました。

① Aki said to Tom,

○ Aki が S (主語)、 said が V (動詞) です。

○ to Tom は修飾語で副詞のはたらきです。

「トムに」という意味をもち、動詞 said を修飾しています。

② I have a good idea to tell her.

○ I が S (主語)、 have が V (動詞)、 a good idea が O (目的語) です。

I = Aki です。

○ to tell her は「彼女に伝える (ための)」という意味で、形容詞のはたらきです。

a good idea を修飾しています。

her = Tom's mother です。

③ There's a wonderful animal hotel in our city.

○ a wonderful animal hotel が S (主語)、 is が V (動詞) です。

○ in our city は修飾語で副詞のはたらきです。

「私たちの街に」という意味をもち、動詞 is の場所を説明しています。

○ There は「～がある」という存在を表現するための形式主語です。(意味上の主語ではない)

④ During the trip, your pet can stay there.

○ your pet が S (主語)、 can stay が V (動詞) です。

○ there は副詞です。「そこに」という意味をもち、動詞 stay を修飾しています。

○ During the trip は修飾語で副詞のはたらきです。

「旅行の間」という意味をもち、動詞 stay を修飾しています。

Tom is studying Japanese (at a college <in Japan>).

S V O

トムは日本の大学で日本語を勉強しています。

○ Tom が S (主語)、is studying が V (動詞)、 Japanese が O (目的語) です。

○ at a college in Japan は修飾語で副詞のはたらきです。

「日本にある大学で」という意味をもち、動詞 is studying の場所を説明しています。

○ in Japan は修飾語で形容詞のはたらきです。

「日本の」という意味をもち、a college を修飾しています。

(When he doesn't know something),
 S V O

people <around him> (always) tell him [what to do].
 S V O O

彼が何かわからないとき、いつも彼のまわりの人々が彼に何をすればよいか教えてくれます。

○ この文は、従属節 “When he doesn’t know something,” と主節 “people around him always tell him what to do” の2つの部分からなる複文です。

① When he doesn’t know something,

○ when は、時間を表す接続詞で、「～するとき」という意味をもちます。

○ he が S (主語)、 doesn’t know が V (動詞)、 something が O (目的語) です。

② people around him always tell him what to do

○ people が S (主語)、 tell が V (動詞) です。

○ around him は修飾語で形容詞のはたらきです。

「彼のまわりの」という意味をもち、people を修飾しています。

○ tell のあとに、2種類の O (目的語) が続いています。

○ him は「伝えた相手：誰 (間接 O)」を示しています。

○ what to do は「伝えたこと：何 (直接 O)」を示しています。

「何をすべきか」という意味で、名詞として扱っています。

○ always は副詞です。「いつも」という意味をもち、動詞 tell を修飾しています。

(Last Sunday),

he went (to the library <next to his town>) (by train) (alone).
S V

この前の日曜日、彼は隣町の図書館に電車に乗ってひとりで去了。

① Last Sunday,

○ 修飾語で副詞のはたらきです。

「先週の日曜日」という意味をもち、文全体の時を表しています。

② he went to the library next to his town by train alone.

○ he が S (主語)、 went が V (動詞) です。

○ to the library next to his town は修飾語で副詞のはたらきです。

「彼の町の隣にある図書館へ」という意味をもち、動詞 went を修飾しています。

○ next to his town は修飾語で形容詞のはたらきです。

「彼の町の隣にある」という意味をもち、the library を修飾しています。

○ by train は修飾語で副詞のはたらきです。

「電車で」という意味をもち、動詞 went を修飾しています。

○ alone は副詞です。「一人で」という意味をもち、動詞 went を修飾しています。

And she told him [how to get (to the station)].
S V O O

そして彼女は駅までの行き方を彼に教えてくれました。

- she が S (主語)、told が V (動詞) です。
- told のあとに、2種類の O (目的語) が続いています。
- him は「教えた相手：誰 (間接 O)」を示しています。
- how to get to the station は「教えたこと：何 (直接 O)」を示しています。
「どのように駅へ行くか」という意味で、名詞として扱っています。
- to the station は修飾語で副詞のはたらきです。
「駅へ」という意味をもち、動詞 get の場所を説明しています。

Ken went (to a Chinese family's house) (for a homestay).
S V

ケン is ホームステイのために、ある中国人家族の家に行きました。

○ Ken が S (主語)、 went が V (動詞) です。

○ to a Chinese family's house は修飾語で副詞のはたらきです。

「中国人家族の家に」という意味をもち、動詞 went を修飾しています。

○ for a homestay は修飾語で副詞のはたらきです。

「ホームステイのために」という意味をもち、動詞 went を修飾しています。

She said, “We can understand”
S V S V

each other (by [speaking English]).
O

We’ll be friends (forever).”
S V C

彼女は「私たちは英語を話すことによって、お互いにわかり合えるね。私たちは永遠に友達よ」と言いました。

① She said,

○ She が S (主語)、 said が V (動詞) です。

② We can understand each other by speaking English.

○ We が S (主語)、 can understand が V (動詞)、 each other が O (目的語) です。

○ by speaking English は修飾語で副詞のはたらきです。

「英語を話すことで」という意味をもち、understand を修飾しています。

○ speaking English は「英語を話すこと」という意味で、動作を名詞として扱っています。

③ We’ll be friends forever.

○ We が S (主語)、 will be が V (動詞)、 friends が C (補語) です。

○ forever は副詞です。「永遠に」という意味をもち、動詞 be を修飾しています。

to have から world までが studies を修飾している

He studies English (hard) (to have a lot of chances
S V O

to speak から world までが a lot of chances を修飾している

<to speak (with people <all over the world>>>).

彼は世界中の人々と話す機会をたくさん持つために一生懸命に英語を勉強しています。

① He studies English hard

- He が S (主語)、 studies が V (動詞)、 English が O (目的語) です。
- hard は副詞です。「一生懸命に」という意味をもち、動詞 studies を修飾しています。

② to have a lot of chances to speak with people all over the world.

- 「世界中の人と話すためのたくさんの機会を得るために」という意味で、副詞のはたらきです。動詞 studies の目的を説明しています。
- to speak with people all over the world は「世界中の人と話すための」という意味で、形容詞のはたらきです。 a lot of chances を修飾しています。
- with people all over the world は修飾語で副詞のはたらきです。動詞 speak を修飾しています。
- all over the world は修飾語で形容詞のはたらきです。 people を修飾しています。

(During cold seasons,) a lot of people wear sweaters.
S V O

寒い季節の間、多くの人々がセーターを着ます。

① During cold seasons,

○ 修飾語で副詞のはたらきです。「寒い季節には」という意味をもち、動詞 wear を修飾しています。

② a lot of people wear sweaters.

○ a lot of people が S (主語)、 wear が V (動詞)、 sweaters が O (目的語) です。

The name comes (from "[to sweat].")
S V

その名前は「汗をかくこと」から来ています。

○ The name が S (主語)、 comes が V (動詞) です。

○ from "to sweat" は修飾語で副詞のはたらきです。

「汗をかくことから」という意味をもち、動詞 comes の由来・出所を説明しています。

○ to sweat は「汗をかくこと」という意味で、名詞として扱っています。

Do you know the reason?
S V O

その理由を知っていますか。

○ you が S (主語)、 (Do ~) know が V (動詞)、 the reason が O (目的語) です。

○ Do は助動詞で、主語の前に置くことで疑問文を形成します。

know の有無をたずねる文になっています。

(In 1891,) football players started wearing a special warm uniform.
S V O

1891年、アメリカのフットボール選手たちが特別な暖かいユニフォームを着始めました

① In 1891,

○ 修飾語で副詞のはたらきです。動詞 started を修飾しています。

② football players in America started wearing a special warm uniform.

○ football players が S (主語)、 started が V (動詞)、 wearing a special warm uniform が O (目的語) です。

○ wearing a special warm uniform は「特別な暖かいユニフォームを着ること」という意味で、動作を名詞として扱っています。

○ in America は修飾語で形容詞のはたらきです。 football players を説明しています。

Athletes avoid gaining weight (to improve their performance).
S V O

運動選手たちはパフォーマンスを向上させるために体重を増やすことを避けます

○ Athletes が S (主語)、 avoid が V (動詞)、 using a computer が O (目的語) です。

○ gaining weight は「体重を増やすこと」という意味で、動作を名詞として扱っています。

○ to improve their performance は「パフォーマンスを向上させるために」という意味で、副詞のはたらきです。動詞 avoid の目的を説明しています。

So, the players planned [to sweat (a lot) (by [wearing the uniform] (while they were training))].

S V O

だから、その選手たちはトレーニング中にそのユニフォームを着ることでたくさん汗をかこうとしました。

① So,

○ 前の文の結果として、この文が続くことを示す接続詞です。

② the players planned to sweat a lot by wearing the uniform while they were training

○ the players が S (主語)、planned が V (動詞)、to sweat a lot by wearing the uniform while they were training が O (目的語) です。

○ to sweat a lot by wearing the uniform while they were training は「トレーニング中にそのユニフォームを着ることでたくさん汗をかくこと」という意味で、名詞として扱っています。

○ a lot は修飾語で副詞のはたらきです。

「たくさん」という意味をもち、sweat の程度を説明しています。

○ by wearing the uniform while they were training は修飾語で副詞のはたらきです。

「トレーニング中にそのユニフォームを着ることで」という意味をもち、sweat を修飾しています。

○ wearing the uniform は「そのユニフォームを着ること」という意味で、動作を名詞として扱っています。

Mike came (to Japan) (from America) (a few years ago).
S V

マイクは2、3年前にアメリカから日本にきました。

○ Mike が S (主語)、 came が V (動詞) です。

○ to Japan は修飾語で副詞のはたらきです。

「日本に」という意味をもち、came を修飾しています。

○ from America は修飾語で副詞のはたらきです。

「アメリカから」という意味をもち、came を修飾しています。

○ a few years ago は修飾語で副詞のはたらきです。

「数年前に」という意味をもち、came を修飾しています。

He said, “(When we paint the sun), we (usually) use yellow.

彼は言いました、「ぼくたちが太陽を描くとき、たいてい黄色を使います。

① He said,

○ He が S (主語)、 said が V (動詞) です。

② “When we paint the sun,

○ 主語と動詞をふくむ節です。

we が S (主語)、 paint が V (動詞)、 the sun が O (目的語) です。

「私たちは太陽を描くとき」という意味をもち、 use を修飾しています。

③ we usually use yellow.

○ we が S (主語)、 use が V (動詞)、 yellow が O (目的語) です。

○ usually は副詞です。「たいてい」という意味をもち、動詞 use を修飾しています。

But you (usually) use red (in Japan).

でも日本では、ふつう赤を使います。

④ But you usually use red in Japan.

○ you が S (主語)、 use が V (動詞)、 red が O (目的語) です。

○ usually は副詞です。「たいてい」という意味をもち、動詞 use を修飾しています。

○ in Japan は修飾語で副詞のはたらきです。

「日本では」という意味をもち、動詞 use を修飾しています。

And a lot of people <in America> use white (for the moon),
S V O
but Japanese people use yellow.
S V O

そしてアメリカの多くの人々は月に白を使いますが、日本人は黄色を使います。

⑤ And a lot of people in America use white for the moon,

- a lot of people が S (主語)、 use が V (動詞)、 white が O (目的語) です。
- in America は修飾語で形容詞のはたらきです。 a lot of people を説明しています。
- for the moon は修飾語で副詞のはたらきです。

「月 (のため) に」という意味をもち、動詞 use を修飾しています。

⑥ but Japanese people use yellow.

- Japanese people が S (主語)、 use が V (動詞)、 yellow が O (目的語) です。

[Comparing different views <between two countries>] is fun.
S V C

2つの国の異なる考えを比較するのはおもしろいです。

○ Comparing different views between two countries が S (主語)、is が V (動詞)、fun が C (補語) です。

○ Comparing different views between two countries は「2つの国の異なる考えを比較すること」という意味で、動作を名詞として扱っています。

○ between two countries は修飾語で形容詞のはたらきです。

different views を説明しています。

○ Comparing different views between two countries = fun の関係です。

fun が Comparing different views between two countries の性質を説明する補語になっています。

There are many differences <between Earth and Mars>.
V S

地球と火星の間には多くの違いがあります。

○ many differences が S (主語)、are が V (動詞) です。

○ between Earth and Mars は修飾語で形容詞のはたらきです。

「地球と火星の間に」という意味をもち、 many differences を説明しています。

○ There は「～がある」という存在を表現するための形式主語です。(意味上の主語ではない)

Mars is a small planet, and it is smaller (than Earth).
S V C S V C

火星は小さな惑星で、地球よりも小さいです。

① Mars is a small planet,

○ Mars が S (主語)、 is が V (動詞)、 a small planet が C (補語) です。

② and it is smaller than Earth.

○ it が S (主語)、 is が V (動詞)、 smaller が C (補語) です。

○ この文の it は Mars を指しています。

○ than Earth は修飾語で副詞のはたらきです。

「地球より」という意味をもち、 smaller の比較の対象を示しています。

(To go around the sun), Earth needs 365 days, and

Mars needs 687 days.

太陽の周りを回るには、地球は 365 日必要で、火星は 687 日必要です。

① To go around the sun,

○ to go around the sun は「太陽のまわりを回るために」という意味で、副詞のはたらきです。

「Earth needs ~」の動詞 needs と「Mars needs ~」の動詞 needs を修飾しています。

② Earth needs 365 days,

○ Earth が S (主語)、needs が V (動詞)、365 days が O (目的語) です。

③ and Mars needs 687 days.

○ Mars が S (主語)、needs が V (動詞)、687 days が O (目的語) です。

The highest mountain <on Mars> is about 27,000 meters high,
S V C

and it is higher (than the highest mountain <on Earth>).
S V C

火星でいちばん高い山は約27,000メートルで、それは地球でいちばん高い山よりも高いです。

① The highest mountain on Mars is about 27,000 meters high,

○ The highest mountain が S (主語)、 is が V (動詞)、 about 27,000 meters high が C (補語) です。

○ on Mars は修飾語で形容詞のはたらきです。

「火星で」という意味をもち、 The highest mountain を説明しています。

② and it is higher than the highest mountain on Earth.

○ it が S (主語)、 is が V (動詞)、 higher が C (補語) です。

○ この文の it は the highest mountain on Mars を指しています。

○ than the highest mountain on Earth は修飾語で副詞のはたらきです。

「地球で最も高い山より」という意味をもち、 higher の比較の対象を示しています。

○ on Earth は修飾語で形容詞のはたらきです。

「地球で」という意味をもち、 the highest mountain を説明しています。

Earth has (only) one moon, but Mars has two moons.
S V O S V O

地球には1つの月しかありませんが、火星には2つの月があります。

① Earth has only one moon,

- He が S (主語)、 has が V (動詞)、 one moon が O (目的語) です。
- only は副詞です。「たった1つだけの」という意味をもち、形容詞 one を修飾しています。

② but Mars has two moons.

- Mars が S (主語)、 has が V (動詞)、 two moons が O (目的語) です。
- 接続詞 but でつながれた2つの文は、対等に逆の意味で結ばれています。

(Today) I am going to talk (about popular things <to do>
_S _V
(in our free time)).

今日、私は私達がひまな時間にする人気のあることについて話をしようと思います

① Today

○ 副詞です。文の先頭に置くことで、「今日は」という 時の情報 を強調しています。

② I am going to talk about popular things to do in our free time.

○ I が S (主語)、 am going to talk が V (動詞) です。

○ about popular things to do in our free time は修飾語で副詞のはたらきです。

「ひまな時間にする人気のあることについて」という意味をもち、動詞 talk を修飾しています。

○ to do は「するための」という意味で、形容詞のはたらきです。

popular things を修飾しています。

○ in our free time は修飾語で副詞のはたらきです。

「ひまな時間に」という意味をもち、do を修飾しています。

(Yesterday) I asked thirty-two students <in our class>.
S V O

昨日、私は私たちのクラスの 32 人の生徒にたずねました。

① Yesterday

○ 副詞です。文の先頭に置くことで、「昨日」という 時の情報 を強調しています。

② I asked thirty-two students in our class.

○ I が S (主語)、asked が V (動詞)、thirty-two students が O (目的語) です。

○ in our class は修飾語で形容詞のはたらきです。

「私たちのクラスの」という意味をもち、thirty-two students を説明しています。

What is the most popular thing <to do> <in our class>?
S V C

私たちのクラスでいちばん人気のあることは何でしょうか。

○ What が S (主語)、is が V (動詞)、the most popular thing が C (補語) です。

○ to do は「するための」という意味で、形容詞のはたらきです。

the most popular thing を修飾しています。

○ in our class は修飾語で形容詞のはたらきです。

「私たちのクラスの」という意味をもち、the most popular thing to do を説明しています。

○ What は疑問詞で、「何?」という意味をもちます。

ここでは、主語として What = the most popular thing となります。

[Playing sports], [listening (to music)], [reading books],
or [playing video games]?

スポーツをすることでしょうか、音楽を聞くことでしょうか、本を読むことでしょうか、テレビゲームをすることでしょうか

※ この文は主語や動詞などがなく、前の文の質問に対して、選択肢が複数示されています。

○ Playing sports は「スポーツをすること」という意味で、動作を名詞として扱っています。

○ listening to music は「音楽を聞くこと」という意味で、動作を名詞として扱っています。

○ reading books は「本を読むこと」という意味で、動作を名詞として扱っています。

○ playing video games は「テレビゲームをすること」という意味で、動作を名詞として

扱っています。

[Listening to music] is the most popular thing.
S V C

音楽を聞くことがいちばん人気があることです。

○ Listening to music が S (主語)、 is が V (動詞)、 the most popular thing が C (補語) です。

○ Listening to music は「音楽を聞くこと」という意味で、動作を名詞として扱っています。

○ Listening to music = the most popular thing の関係です。

the most popular thing が Listening to music の内容を説明する補語になっています。

Over fifteen students S said, "I like S V [to listen (to music)] O."

15 人より多くの生徒が「私は音楽を聞くことが好きです」と言いました。

① Over fifteen students said,

○ Over fifteen students が S (主語)、 said が V (動詞) です。

② "I like to listen to music."

○ I が S (主語)、 like が V (動詞)、 to listen to music が O (目的語) です。

○ to listen to music は「音楽を聞くこと」という意味で、名詞として扱っています。

○ to music は修飾語で副詞のはたらきです。

「音楽を」という意味をもち、動詞 listen を修飾し、「何を聞くか」を説明しています。

[Reading books] S is V more popular C (than [playing sports]).

本を読むことはスポーツをすることより人気があります。

○ Reading books が S (主語)、 is が V (動詞)、 more popular が C (補語) です。

○ Reading books は「本を読むこと」という意味で、動作を名詞として扱っています。

○ than playing sports は修飾語で副詞のはたらきです。

「スポーツをすることより」という意味をもち、 more popular の比較の対象を示しています。

○ playing sports は「スポーツをすること」という意味で、動作を名詞として扱っています。

「Playing sports」 is (as) popular (as 「playing video games」).
S V C

スポーツをすることはテレビゲームをすることと同じくらい人気があります

- Playing sports が S (主語)、 is が V (動詞)、 popular が C (補語) です。
- Playing sports は「スポーツをすること」という意味で、動作を名詞として扱っています。
- 1つ目の as は副詞で、「同じくらい」という意味をもち、形容詞 popular を修飾し、どのくらい popular かを説明しています。
- as playing video games は修飾語で副詞のはたらきです。
「テレビゲームをすることと同じくらい」という意味をもちます。
- playing video games は「テレビゲームをすること」という意味で、動作を名詞として扱っています。

Which do you like to eat better (for breakfast) , rice or bread?

O

S

V

基本構造は、do you like to eat which better for breakfast

あなたは朝食にご飯とパンのどちらを食べるのが好きですか

○ you が S (主語)、(do ~) like が V (動詞)、 to eat (Which) better for breakfast が O (目的語) です。

○ for breakfast は修飾語で副詞のはたらきです。

「朝食に」という意味をもちます。ここでは、eat を修飾しています。

○ rice or bread はカンマ (,) を用いて Which の内容を補足します。「ご飯かパン」の選択肢を提示しています。

I like rice (better) (than bread).

S

V

O

私はパンよりご飯が好きです。

○ I が S (主語)、 like が V (動詞)、 rice が O (目的語) です。

○ better は副詞です。「よりよく」という意味をもち、動詞 likes を修飾しています。

○ than bread は修飾語で副詞のはたらきです。

「パンより」という意味をもち、 better の比較の対象を示しています。

But I worry (about rice <in Japan>).

でも、私は日本の米について心配しています。

○ I が S (主語)、worry が V (動詞) です。

○ about rice in Japan は修飾語で副詞のはたらきです。

「日本の米について」という意味をもち、動詞 worry を修飾しています。

○ in Japan は修飾語で形容詞のはたらきです。rice を説明しています。

(First), young Japanese people eat bread (more often)

(than rice) (now).

まず、今、若い日本の人々はご飯よりもパンをよく食べます

① First,

○ 副詞です。「第一に」という意味をもち、文全体を修飾しています。

② young Japanese people eat bread more often than rice now.

○ young Japanese people が S (主語)、eat が V (動詞)、bread が O (目的語) です。

○ more often は副詞です。「より頻繁に」という意味をもち、動詞 eat を修飾しています。

○ than rice は修飾語で副詞のはたらきです。

「ご飯より」という意味をもち、more often の比較の対象を示しています。

○ now は副詞です。「今では」という意味をもち、文全体を修飾しています。

(Second), a lot of young people want [to work (in big cities)],
so they don't make rice.

次に、たくさんの若い人々が大都市で働きたがるので彼らは米を作りません。

① Second,

○ 副詞です。「第二に」という意味をもち、文全体を修飾しています。

② a lot of young people want to work in big cities,

○ a lot of young people が S (主語)、 want が V (動詞)、 to work in big cities が O (目的語) です。

○ to work in big cities は「大都市で働くこと」という意味で、名詞として扱っています。

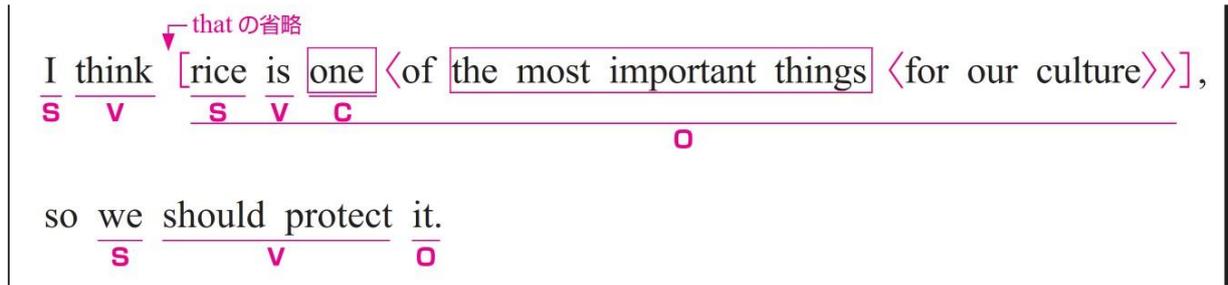
○ in big cities は修飾語で副詞のはたらきです。

「大都市で」という意味をもち、動詞 work を修飾しています。

③ so they don't make rice.

○ they が S (主語)、 don't make が V (動詞)、 rice が O (目的語) です。

○ so は、2つの文(「a lot ~」と「they don't ~」)をつなぎ、前の内容を受けて、その結果こうなるという意味を表しています。



私は米は私たちの文化にとって最も大切なものの1つだと思います。だから私たちはそれを守るべきです。

① I think rice is one of the most important things for our culture,

○ I が S (主語)、 think が V (動詞)、 rice is one of the most important things for our culture, (so we should protect it) が O (目的語) です。

② rice is one of the most important things for our culture

○ 主語と動詞をふくむ節 (名詞節) です。

○ rice が S (主語)、 is が V (動詞)、 one が C (補語) です。

○ of the most important things for our culture は修飾語で形容詞のはたらきです。

one を説明しています。

○ for our culture は修飾語で形容詞のはたらきです。

the most important things を説明しています。

③ so we should protect it.

○ we が S (主語)、 should protect が V (動詞)、 it が O (目的語) です。

○ it はここでは、 rice を指しています。

○ so は、2つの文 (「rice is ~」と「we should ~」) をつなぎ、前の内容を受けて、その結果こうなるという意味を表しています。

Tom saw a shocking picture <from a poor country>.
S V O

トムはある貧しい国の衝撃的な写真を見ました。

- Tom が S (主語)、 saw が V (動詞)、 a shocking picture が O (目的語) です。
- from a poor country は修飾語で形容詞のはたらきです。

「貧しい国からの」という意味をもち、 a shocking picture を説明しています。

A lot of children were lying (on the streets).
S V

たくさん子どもたちが、通りに横たわっていたのです。

- A lot of children が S (主語)、 were lying が V (動詞) です。
- on the streets は修飾語で副詞のはたらきです。

「通りに」という意味をもち、 were lying を修飾し、「どこで横たわっていたのか」を説明しています。

He learned, "Some of the children have diseases, and
S V S V O
they're dying. They need medicine."
S V S V O

彼は「それらの子どもたちの中には病気の子もいて、死にかけている。彼らは薬を必要としている」と知りました。

① He learned,

○ He が S (主語)、learned が V (動詞) です。

② Some of the children have diseases,

○ Some of the children が S (主語)、have が V (動詞)、diseases が O (目的語) です。

③ and they're dying.

○ they が S (主語)、are dying が V (動詞) です。

④ They need medicine.

○ They が S (主語)、need が V (動詞)、medicine が O (目的語) です。

He found a homepage (on the Internet).
S V O

彼はインターネットで、あるホームページを見つけました。

○ He が S (主語)、found が V (動詞)、a homepage が O (目的語) です。

○ on the Internet は修飾語で副詞のはたらきです。

「インターネットで」という意味をもち、found を修飾しています。

| It said, "Save poor children."
S V V O

それには書いてありました。「かわいそうな子どもたちを救ってください。」

① It said,

○ It が S (主語)、 said が V (動詞) です。

この文の it は前の文の a homepage を指しています。

② Save poor children.

○ 命令文です。命令文では通常、主語 you が省略されます。

Save が V (動詞)、 poor children が O (目的語) です。

| (In this campaign), people collect plastic bottle caps.
S V O

このキャンペーンでは、ペットボトルのふたを集めます。

③ In this campaign,

○ 修飾語で副詞のはたらきです。

「このキャンペーンでは」という意味をもち、 collect を修飾しています。

④ people collect plastic bottle caps.

○ people が S (主語)、 collect が V (動詞)、 plastic bottle caps が O (目的語) です。

(With eight hundred caps), they can get money and

buy medicine <for a child>.”

800 個のふたで、彼らはお金を手にして、子ども1人分の薬を買うことができるので

⑤ With eight hundred caps,

- 修飾語で副詞のはたらきです。

「800 個のキャップで」という意味をもち、get / buy を修飾しています。

⑥ they can get money

- they が S (主語)、can get が V (動詞)、money が O (目的語) です。

⑦ and buy medicine for a child.

- buy が V (動詞)、medicine が O (目的語) です。
- 接続詞 and によって、2つの動詞 (can get と buy) が同じ主語 they にかかっています。
- for a child は修飾語で副詞のはたらきです。

「1 人の子どものために」という意味をもち、buy を修飾しています。

Ben, an American boy, stayed (with Hiroshi's family).
S Benと同格 V

アメリカ人の男の子のベンはヒロシの家に滞在しました。

○ Ben が S (主語)、 stayed が V (動詞) です。

○ an American boy は Ben を説明する同格表現です。

Ben がどんな人かを詳しく (追加情報) 述べています。

○ with Hiroshi's family は修飾語で副詞のはたらきです。

「ヒロシの家族のもとで」という意味をもち、動詞 stayed を修飾しています。

Hiroshi's grandmother lives (alone) (near his house).
S V

ヒロシのおばあさんは彼の家の近くで、1人で暮らしています。

○ Hiroshi's grandmother が S (主語)、 lives が V (動詞) です。

○ alone は副詞です。「1人で」という意味をもち、動詞 lives を修飾しています。

○ near the sea は修飾語で副詞のはたらきです。

「海の近くに」という意味をもち、動詞 lives を修飾し、「どこに住んでいるか」を説明しています。

| She works (on her farm) (every day). |
| S V |

彼女は毎日、畑で働きます。

○ She が S (主語)、 works が V (動詞) です。

○ on her farm は修飾語で副詞のはたらきです。

「自分の農場で」という意味をもち、動詞 works の場所を説明しています。

○ every day は修飾語で副詞のはたらきです。

「毎日」という意味をもち、動詞 works の頻度を説明しています。

(One day in August), Ben visited her (with Hiroshi)

(for the first time).

8月のある日、ベンはヒロシといっしょに、はじめて彼女を訪ねました。

① One day in August,

○ 修飾語で副詞のはたらきです。

「8月のある日」という意味をもち、文全体の時を表しています。

② Ben visited her with Hiroshi for the first time.

○ Ben が S (主語)、 visited が V (動詞)、 her が O (目的語) です。

○ with Hiroshi は修飾語で副詞のはたらきです。

「ヒロシといっしょに」という意味をもち、動詞 visited を修飾しています。

○ for the first time は修飾語で副詞のはたらきです。

「初めて、最初に」という意味をもち、動詞 visited を修飾しています。

She made lunch (for them).

彼女は2人のために昼食を作りました。

○ She が S (主語)、 made が V (動詞)、 lunch が O (目的語) です。

○ for them は修飾語で副詞のはたらきです。

「彼らのために」という意味をもち、動詞 made を修飾し、「誰のために (目的)」を説明しています。

“Help yourself,” she said (in English).

彼女は、「どうぞめし上がれ」と英語で言いました。

① “Help yourself,”

○ 命令文です。命令文では通常、主語 you が省略されます。

Help が V (動詞)、yourself が O (目的語) です。

② she said in English.

○ she が S (主語)、said が V (動詞) です。

○ in English は修飾語で副詞のはたらきです。

「英語で」という意味をもち、動詞 said を修飾しています。

“Thank you,” Ben answered, and he enjoyed the food.

ベンは「ありがとうございます」と答え、食べ物を楽しみました。

① “Thank you,” Ben answered,

○ 通常の語順は、Ben answered "Thank you." 。

② and he enjoyed the food.

○ he が S (主語)、enjoyed が V (動詞)、the food が O (目的語) です。

○ and は接続詞で、2つの文(「Thank ~」と「he ~」)を時間順に並べています。

She learned English (from Hiroshi), and she could speak it

(a little).

彼女はヒロシから英語を習い、少し話すことができました。

① She learned English from Hiroshi,

- She が S (主語)、 learned が V (動詞)、 English が O (目的語) です。
- from Hiroshi は修飾語で副詞のはたらきです。

「ヒロシから」という意味をもち、動詞 learned を修飾し、「どこから学んだか」を説明しています。

② and she could speak it a little.

- she が S (主語)、 could speak が V (動詞)、 it が O (目的語) です。
- a little は修飾語で副詞のはたらきです。

「少し」という意味をもち、speak の程度を説明しています。

- and は接続詞で、2つの文（「She learned ～」と「she could ～」）を時間順に並べています。

My sister will visit New Zealand (to study English)

S V O

(for two weeks) (in December).

私の姉[妹]は、12月に2週間英語を勉強するためにニュージーランドを訪れる予定です

○ My sister が S (主語)、 will visit が V (動詞)、 New Zealand が O (目的語) です。

○ to study English は「英語を勉強するために」という意味で、副詞のはたらきです。

動詞 will visit の目的を説明しています。

○ for two weeks は修飾語で副詞のはたらきです。

「2週間の間」という意味をもち、動詞 will visit の期間を説明しています。

○ in December は修飾語で副詞のはたらきです。

「12月に」という意味をもち、動詞 will visit を修飾しています。

There is a four-hour time difference <between these two countries>
V S
(in December).

12 月、これら2国間には4時間の時差があります。

○ a four-hour time difference が S (主語)、is が V (動詞) です。

○ between these two countries は修飾語で形容詞のはたらきです。

「これら 2 か国の間で」という意味をもち、a four-hour time difference を説明しています。

○ in December は修飾語で副詞のはたらきです。

「12月に」という意味をもち、動詞 is を修飾しています。

○ There は「～がある」という存在を表現するための形式主語です。(意味上の主語ではない)

(When it's five p.m. (in Japan)), it's nine p.m. (in New Zealand).

日本で午後5時のとき、ニュージーランドでは午後9時です。

① When it's five p.m. in Japan,

○ it が S (主語)、is が V (動詞)、five p.m. が C (補語) です。

○ in Japan は修飾語で副詞のはたらきです。

「日本で」という意味をもち、is の場所を説明しています。

○ when は、時を表す接続詞で、「～するとき」という意味をもちます。

② it's nine p.m. in New Zealand.

○ it が S (主語)、is が V (動詞)、nine p.m. が C (補語) です。

○ it は形式主語で、文の構造を整えるはたらきです。実際の意味をもちません。

○ in New Zealand は修飾語で副詞のはたらきです。

「ニュージーランドでは」という意味をもち、is の場所を説明しています。

(At her high school), she will give a presentation <about Japanese food>.

彼女の高校で姉[妹]は、日本食についてのプレゼンテーションをする予定です。

① At her high school,

○ 修飾語で副詞のはたらきです。

「彼女の高校で」という意味をもち、文全体を修飾しています。

② she will give a presentation about Japanese food.

○ she が S (主語)、 will give が V (動詞)、 a presentation about Japanese food が O (目的語) です。

○ about Japanese food は修飾語で形容詞のはたらきです。

「日本食についての」という意味をもち、 a presentation を説明しています。

Each <of the students> has a different presentation topic.

生徒それぞれが異なるプレゼンテーションのテーマを持っています

○ Each が S (主語)、 has が V (動詞)、 a different presentation topic が O (目的語) です。

○ of the students は修飾語で形容詞のはたらきです。 Each を説明しています。

| She found out [that she didn't know anything <about Japanese food>],
| S V S V O
| so she is studying it.
| S V O

姉[妹]は日本食について何も知らないことに気付いたので、それを勉強しています。

① She found out that she didn't know anything about Japanese food,

○ She が S (主語)、 found out が V (動詞)、 that she didn't know anything about Japanese food が O (目的語) です。

○ that she didn't know anything about Japanese food は主語と動詞をふくむ節 (名詞節) です。

she が S (主語)、 didn't know が V (動詞)、 anything が O (目的語) です。

○ about Japanese food は修飾語で形容詞のはたらきです。

anything を説明しています。

② so she is studying it.

○ she が S (主語)、 is studying が V (動詞)、 it が O (目的語) です。

○ so は、2つの文をつなぎ、前の内容を受けて、その結果こうなるという意味を表しています。

My mother is (from Kyoto).
 S V

私の母は京都出身です。

- My mother が S (主語)、 is が V (動詞) です。
- from Kyoto は修飾語で副詞のはたらきです。

「京都から」という意味をもち、動詞 is の場所 (出身地) を説明しています。

She said [that Nishin Soba noodles were famous
S V S V C
 O
(in Kyoto and Hokkaido)].

彼女は、にしんそばが京都と北海道で有名だと言いました。

- She が S (主語)、 said が V (動詞)、 that Nishin Soba noodles were famous in Kyoto and Hokkaido が O (目的語) です。
- that Nishin ~ Hokkaido は、主語と動詞をふくむ節 (名詞節) です。

Nishin Soba noodles が S (主語)、 were が V (動詞)、 famous が C (補語) です。

- in Kyoto and Hokkaido は修飾語で副詞のはたらきです。

「京都と北海道で」という意味をもち、 famous を修飾しています。

Then, I read a book <about herrings <in Japan>>.
S V O

そして、私は日本のニシンについての本を読みました。

- Then は副詞です。「それでは」という意味をもち、文全体を修飾しています。
- I が S (主語)、read が V (動詞)、a book が O (目的語) です。
- about herrings in Japan は修飾語で形容詞のはたらきです。

「日本のニシンについての」という意味をもち、a book を説明しています。

- in Japan は修飾語で形容詞のはたらきです。herrings を説明しています。

(From the Edo (to the early Showa period)),

people caught a lot of herrings (in Hokkaido).
S V O

江戸から昭和初期の時代まで、人々は大量のニシンを北海道で捕りました。

① From the Edo to the early Showa period,

- 修飾語で副詞のはたらきです。

「江戸から昭和初期まで」という意味をもち、文全体を修飾しています。

- to the early Showa period は修飾語で副詞のはたらきです。

「昭和初期までに」という意味です。

② people caught a lot of herrings in Hokkaido.

- people が S (主語)、caught が V (動詞)、a lot of herrings が O (目的語) です。
- in Hokkaido は修飾語で副詞のはたらきです。

「北海道で」という意味をもち、動詞 caught を修飾し、「どこで捕まえたか」を説明しています。

People dried the herrings and brought them (to Osaka) (by ship).

人々はそのニシンを乾燥させ、船で大阪に持ってきました。

① People dried the herrings

○ People が S (主語)、dried が V (動詞)、the herrings が O (目的語) です。

② and brought them to Osaka by ship.

○ brought が V (動詞)、them が O (目的語) です。

○ 接続詞 and によって、2つの動詞 (dried と brought) が同じ主語 People にかかっています。

○ to Osaka は修飾語で副詞のはたらきです。

「大阪へ」という意味をもち、動詞 brought の目的地を説明しています。

○ by ship は修飾語で副詞のはたらきです。「船で」という意味をもち、動詞 brought の手段・方法を説明しています。

(In Kyoto), a restaurant started servicing soba noodles
S V O
[with the herring on them].

京都では、とある食堂がそのニシンをのせたそばを提供し始めました。

① In Kyoto,

○ 修飾語で副詞のはたらきです。「京都で」という意味をもち、文全体を修飾しています。

② a restaurant started serving soba noodles with the herring on them.

○ a restaurant が S (主語)、 started が V (動詞)、 serving soba noodles with the herring on them が O (目的語) です。

○ serving soba noodles with the herring on them は、「ニシンがのったそばを出すこと」という意味で、動作を名詞として扱っています。

○ with the herring on them は修飾語で形容詞のはたらきです。

「上にニシンがのったそば」という意味をもち、 soba noodles を説明しています。

○ on them は修飾語で形容詞のはたらきです。「その上に」という意味をもち、 the herring を説明しています。 ※ them = soba noodles です。

That is the beginning of Nishin Soba.
S V C

それがにしんそばの始まりです。

○ That が S (主語)、 is が V (動詞)、 the beginning が C (補語) です。

○ of Nishin Soba は修飾語で形容詞のはたらきです。

「にしんそばの」という意味をもち、 the beginning を説明しています。

(In Japan), six kinds <of coins> are used.

日本では6種類の硬貨が使われています

○ six kinds が S（主語）、are used が V（動詞）です。

○ in Japan は修飾語で副詞のはたらきです。

「日本で」という意味をもち、動詞 are used の場所を説明しています。

○ of coins は修飾語で形容詞のはたらきです。six kinds を説明しています。

(Among them), the five-yen coin has a hole (in the middle).

それらの中で、5円硬貨には真ん中に穴があります

○ the five-yen coin が S（主語）、has が V（動詞）、a hole が O（目的語）です。

○ in the middle は修飾語で副詞のはたらきです。

「真ん中に」という意味をもち、動詞 has の場所を説明しています。

○ Among them は修飾語で副詞のはたらきです。

them は 前の文の six kinds of coins を指しています。

ここでは、6種類の硬貨の中で、その中の1つとして、5円硬貨について述べられています。

The fifty-yen coin has a hole, (too).

50 円硬貨にも穴があります。

- The fifty-yen coin が S（主語）、has が V（動詞）、a hole が O（目的語）です。
- too は副詞です。50 円硬貨も 5 円硬貨と同じ特徴があることを示しています。

(Then), why do they have holes?

なぜ do they have holes? they = the five-yen coin と the fifty-yen coin

では、それらにはなぜ穴があるのでしょうか

- they が S（主語）、have が V（動詞）、holes が O（目的語）です。

※ they = the five-yen coin と the fifty-yen coin

- Then は副詞です。

「では、次に」といった意味を持ち、前の文を受けて話の流れを次へ進める役割をしています。

- why は理由をたずねる疑問詞です。

ここでは「なぜそれらに穴があるのか」をたずねています。

I think [there are some reasons <for that>].
S V V S
there are 以下は名詞節、think の目的語 O

私はそれにはいくつか理由があると思います

○ I が S（主語）、think が V（動詞）、there are some reasons for that が O（目的語）です。

※ there are 以下は名詞節、think の目的語

○ there are some reasons for that は主語と動詞をふくむ節（名詞節）です。

some reasons が S（主語）、are が V（動詞）です。

○ for that は修飾語で形容詞のはたらきです。some reasons を説明しています。

that は前の文の why do they have holes? 「なぜそれらに穴があいているのか」をさし
ています。

You use many kinds of yakimono (in your everyday life).

あなたは、あなたの毎日の生活で、たくさんの種類の焼き物を使います。

- You が S (主語)、 use が V (動詞)、 many kinds of yakimono が O (目的語) です。
- in your everyday life は修飾語で副詞のはたらきです。

「日常生活で」という意味をもち、動詞 use の場所や状況を説明しています。

(When you eat meals), you use a rice bowl.

食事をするとき、あなたは茶碗を使います。

- 2つ目の you が S (主語)、 use が V (動詞)、 a rice bowl が O (目的語) です。
- When you eat meals は主語と動詞をふくむ節 (副詞節) です。
- you が S (主語)、 eat が V (動詞)、 meals が O (目的語) です。
- 「you use a rice bowl するのは、どんなときか」を説明しています。

(When you drink tea), you use a tea cup.
S V O S V O

紅茶を飲むとき、あなたはティーカップを使います

- 2つ目の you が S（主語）、 use が V（動詞）、 a tea cup が O（目的語）です。
- When you drink tea は主語と動詞をふくむ節（副詞節）です。
- you が S（主語）、 drink が V（動詞）、 tea が O（目的語）です。
- 「you use a tea cup するのは、どんなときか」を説明しています。

These things are called yakimono.
S V C

これらのものは焼き物と呼ばれています

- These things が S（主語）、 are called が V（動詞）、 yakimono が C（補語）です。
- These things = yakimono の関係です。

We make yakimono (with clay).
S V O

私たちは土で焼き物を作ります。

- We が S（主語）、 make が V（動詞）、 yakimono が O（目的語）です。
- with clay は修飾語で副詞のはたらきです。

「土で」という意味をもち、動詞 make の材料を説明しています。

(Although the first products <of yakimono> <in Japan> were weak),

people can produce stronger yakimono (now).

日本の最初の焼き物の製品はもろかったですが今ではより頑丈な焼き物を作ることができます。

○ people が S（主語）、 can produce が V（動詞）、 stronger yakimono が O（目的語）です。

○ now は副詞です。現在は頑丈な焼き物を作ることができるようになったことを示しています。

○ Although the first products of yakimono in Japan were weak は主語と動詞をふくむ節（副詞節）です。

○ the first products が S（主語）、 were が V（動詞）、 weak が C（補語）です。

○ the first products = weak の関係です。

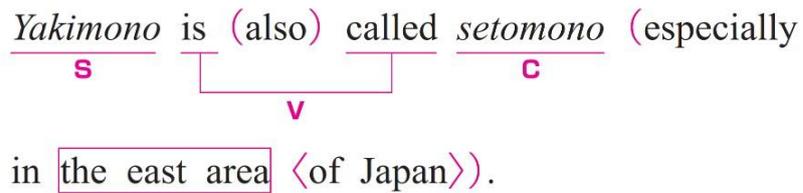
○ of yakimono は修飾語で形容詞のはたらきです。 the first products を説明しています。

○ in Japan は修飾語で形容詞のはたらきです。

the first products of yakimono を説明しています。

○ 「people can produce stronger yakimono now」に対して逆説の関係を示しています。

Yakimono is (also) called setomono (especially
in the east area <of Japan>).



焼き物は、特に東日本の地域で、瀬戸物とも呼ばれています。

- Yakimono が S (主語)、 is called が V (動詞)、 setomono が C (補語) です。
 - Yakimono = setomono の関係です。
 - also は副詞です。動詞 is called を修飾し、他にも呼び名があることを示しています。
 - especially in the east area of Japan は修飾語で副詞のはたらきです。
- 「特に日本の東部地域で」という意味をもち、動詞 is called の場所を説明しています。